科目名	リハビリテーション研究入門
科目責任者	宮前　珠子
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　春セメスター
科目の 位置付	リハビリテーション分野の最新の専門知識・技術を習得し、論理的思考力を身に付けて諸課題の解決に向けて分析することができる.
科目概要	初回は研究方法の種類・分類などに関する学修をします。２回目からは、各担当者が自身の代表的な研究及び/または各関心領域の優れた研究について紹介致します。 研究疑問を抱くに至った経緯、研究テーマの決定、目的、方法（対象、データ収集方法、データ処理法）、結果、考察、結論、限界、展望などについて分かりやすく解説します。 また、研究遂行上の問題点、苦労した点、工夫した点、研究から得たもの、失敗などの体験談も含まれます。
到達目標	１．研究方法の種類・分類について説明出来る ２．各担当者から紹介・解説された研究が、研究法の分類上どの方法にあたるかを分析できる ３．研究テーマに対して適切な研究法を用いることの重要性を理解する
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：　研究の発展段階と研究法の分類など　宮前珠子 第 2 回：　呼吸循環リハビリテーションのトピックス　有薗信一 第 3 回：　発達領域における研究　伊藤信寿 第 4 回：　運動器障害に対する研究　根地嶋誠 第 5 回：　近年のメンタルヘルスに関する研究動向とその実際　新宮尚人 第 6 回：　痛みと脳に関する研究について　金原一宏 第 7 回：　リハビリテーション領域における QOL 研究の動向　泉　良太 第 8 回：　リハビリテーション対象疾患の発症予防に関する研究　矢倉千昭 第 9 回：　認知症の介入療法　佐藤順子 第 10 回：　在宅脳卒中患者の転倒予防の最前線　吉本好延 第 11 回：　神経原性吃音の研究について　谷　哲夫 第 12 回：　実験形態学研究　顧　寿智 第 13 回：　日本における作業療法学の現代史　田島明子 第 14 回：　０～１歳児における補聴器装用の支援と関連要因の検討： データロギングによる時間記録機能の利用　大原重洋 第 15 回：　随意嚥下時の大脳血流増加部位に関する脳機能画像研究　柴本　勇

学修方法	研究方法等に関する教員とのディスカッション、　グループディスカッション 担当者から紹介・解説された論文が、研究法のどの分類にあたるかを分析・理解する.
評価方法	授業への出席・ディスカッションへの参加：５０％ レポート：５０％（次のいずれか一つ　①この科目から学んだこと、②それぞれの研究の発展段階から見た分類と方法から見た分類.　　４０字x４０行　３，４枚程度）
課題に対するフィードバック	レポートにコメントをつけて返却する.
指定図書	抱井尚子：混合研究法入門ー質と量による統合のアートー. 医学書院. 2015
参考書	必要に応じて各担当者が連絡します
事前・事後学修	必要に応じて各担当者が連絡します
オフィスアワー	リハビリテーション科学研究科　５６０４研究室(内線5604、外線直通tel.053-439-3247) 随時（前もってご連絡下さい. 電話または　tamako-m@seirei.ac.jp）

科目名	内部障害リハビリテーション学
科目責任者	有薗　信一
単位数他	2 単位（30 時間）選択 春
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	様々な疾患における健康に関連する physical fitness の臨床的研究について検討する．physical fitness が障害される発生機序，病態・障害像，治療に関する病理学的思考プロセスについて考察し，リハビリテーション実践の根幹を探求する．
到達目標	1.　様々な疾患の physical fitness の障害を理解する． 2.　それぞれの病態に応じた，リハビリテーションアプローチを理解する．
授業計画	＜担当教員名＞有薗信一，矢倉千昭，吉本好延，根地嶋誠，金原一宏，俵祐一 ＜授業内容・テーマ等＞ 1.　呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（1）有薗信一 2.　呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（2）有薗信一 3.　呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（3）俵祐一 4.　呼吸循環機能障害の physical fitness の特徴と課題（4）俵祐一 5.　生活習慣病の physical fitness の特徴と課題（1）矢倉千昭 6.　生活習慣病の physical fitness の特徴と課題（2）矢倉千昭 7.　中枢神経障害の physical fitness の特徴と課題（1）吉本好延 8.　中枢神経障害の physical fitness の特徴と課題（2）吉本好延 9.　運動器障害の physical fitness の特徴と課題（1）根地嶋誠 10.　運動器障害の physical fitness の特徴と課題（2）根地嶋誠 11.　疼痛患者の physical fitness の特徴と課題（1）金原一宏 12.　疼痛患者の physical fitness の特徴と課題（2）金原一宏 13.　女性の physical fitness の最新トピックス（1）有薗信一 14.　女性の physical fitness の最新トピックス（2）有薗信一 15.　腎機能障害の physical fitness の最新トピックス（1）有薗信一

学修方法	・各セッションの課題をグループワークで解決・発表する ・授業の配布資料は、自分たちのグループで事前に作成した資料とする ・授業時間中に適宜、学生間で教えあう時間を確保し、全学生の理解を促す
評価方法	課題の取り組み（50%），プレゼンテーション（50%）
課題に対するフィードバック	・発表会の途中で教員が随時補足していく ・教員フィードバックを通じて補足した点を、確認・フィードバックを行う
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	講義は英語と日本語で行います. 授業課題，研究課題に関係する論文などを探索し，理学療法に関する研究領域を学び，修士研究のテーマ，研究方法を検討する.
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3503 研究室 時間については，初回授業時に提示します. 上記以外でもメール（shinichi-a@seirei.ac.jp）でアポイントを取ってください.

科目名	生活環境リハビリテーション学
科目責任者	原　和子
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　春
科目の位置付	自らの専門分野以外の知識を修得することを通して幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方ができ、自らの課題解決に生かすことができる
科目概要	障害者の生活環境適応に至る作業行動システムについて学ぶ。バランスのとれた、意味のある生活環境は、作業行動を目的あるものにすると共に、作業行動障害をもつ当事者にリハビリテーションのための手がかりを与えることになる。作業行動理論、アフォーダンス理論、福祉工学分野の理論による生活環境の評価・分析・考察を通して、臨床における作業環境、家族環境、居住環境などの調整に応用できるようにする。
到達目標	1. Therapist は患者にとって、環境のひとつである。Therapeutic な環境として我々が良き存在、支援者となる可能性について発表できる。 2. 具体的な臨床問題を解決するための、環境の中の治療的要素についてレポートできる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：ガイダンス。人間 - 作業 - 環境の交流理論形成の発展　原和子 第 2 回：健康パラダイムにおける環境の捉え方：ICF、作業科学　原和子 第 3 回：健康パラダイムにおける環境の捉え方：人間作業モデル、作業形態概念モデル　原和子 第 4 回：健康パラダイムにおける環境の捉え方：カナダ作業遂行モデル　原和子 第 5 回：生活環境の生態学的認識論（アフォーダンス）　原和子 第 6 回：運動課題における環境配置の影響　原和子 第 7 回：社会的課題における環境の影響：福祉制度、家庭の中で家族の介護に頼っている生活地域の中で生きること、収入を得ること、学校教育の問題　原和子 第 8 回：中間まとめ、発表　原和子 第 9 回：医療・リハビリ、福祉、工学分野の生活支援と 21 世紀の生活環境　林悦子 ・障害者・高齢者の生活環境の変遷と展開～施設から在宅・地域ケアへ、 ・バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザイン、エコデザインの理念 第 10 回：生活環境整備の実態と課題①　住宅　林悦子 （日本における住環境の実態と問題、　福祉用具の活用と住宅改善の進め方） 第 11 回：生活環境整備の実態と課題②　施設、地域密着型ホーム（グループホーム、小規模多機能）、ケア付き住宅　林悦子 第 12 回：生活環境整備の実態と課題③　まちづくり　林悦子 第 13 回：地域ケア（地域リハビリテーション）と今後の居住環境システム　林悦子 （日本・デンマークの地域ケア、英国・オランダの認知症高齢者の取組みなど） ＊職場の生活環境における問題と取組みについての発表とディスカッション 第 14 回：21 世紀に望まれる持続可能な生活環境の理念と実践　林悦子 （バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザイン、エコデザイン（パーマカルチャーデザイン、エコビレッジ等）を統合した住まい、施設環境、まちづくり・地域コミュニティの取り組み） 第 15 回：地域ケアとエコデザインが複合した街中エコビレッジ「いるかビレッジ＊」（豊橋市）の見学　＊親子通園（保育所）、食育カフェ、パーマカルチャーガーデン・自然学校、高齢者ディサービス、障害者就労支援、外国人支援事業が複合　林悦子

学修方法	第 8 回まで、講義、PBL。第 9～15 回の授業においては、講義、ビデオ、発表とディスカッション、見学
評価方法	レポートおよび発表を総合して 100%
課題に対するフィードバック	第 9～15 回の授業において、図面作成の課題レポート（任意）を提出する際は、作図を確認し添削を行う。
指定図書	プリントを配布予定
参考書	『新版　アフォーダンス 』佐々木正人著、岩波科学ライブラリー、岩波書店 『人間作業モデル(改訂 4 版)　理論と応用』G. Kielfohner 著、山田孝監訳、協同医書出版 『作業科学　作業的存在としての人間の研究』R.Zemke, F. Clark 著、佐藤剛監訳、三輪書店 『わかる福祉住環境コーディネーター2 級』林玉子監修、林悦子編著、住宅新報社 『40 歳からの快適居住学』林玉子著、講談社 『超高齢者社会の福祉居住環境』児玉桂子編集、中央法規 『OT・PT のための住環境整備論』、野村歓・ 橋本美芽著、三和輪書店 『園芸療法とリハビリテーション』原和子編、(株) エルゴ 『生活世界の構造』A.Schutz & T. Luchmann 著、那須　壽監訳、ちくま学芸文庫
事前・事後学修	第 8 回まで、配布資料を読み、共感できる生活環境理論を選択しておく。 第 9～15 回の授業に関しては、福祉住環境コーディネーターのテキストや住宅改修・バリアフリー住宅関連の本や参考書の読書、福祉用具の展示会やバリアフリー住宅の展示場の見学、職場での住宅改修の取り組みや生活環境における評価・改善事例などについて自主学修し、より良い生活環境について各自の活発な発言を期待している。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	嚥下障害リハビリテーション学
科目責任者	柴本　勇
単位数他	2 単位（30 時間）　選択　　秋セメスター
科目の位置付	(2)高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	正常な摂食嚥下メカニズムを理解し、摂食嚥下障害の症状・病態・原因・支援法を学ぶ。リハビリテーション学を学ぶものとして、学際的なチームアプローチを理解する。神経疾患、発達障害、器質的病変等で起こる摂食嚥下障害の特徴を理解し、各疾患の特徴に合致したアプローチ法について学ぶ。本科目では疾患由来に特化せず、発達や加齢に伴う嚥下機構の変化についても学ぶ。ビデオ、スライド等の視覚教材を利用し解説する。
到達目標	1. 摂食嚥下障害への対処をリハビリテーションの観点から具体的に理解できる。 2. 個々の病態に対して、評価・治療方法を具体化し実践できる 3. チームの一員として、摂食嚥下リハビリテーションを実践できる 4. 現状の摂食嚥下リハビリテーションの課題を見出し、解決する活動ができる
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：正常嚥下のメカニズムと年齢的変化（発達と加齢に伴う嚥下機構の変化） 第 2 回：嚥下障害の症状と病態 第 3 回：嚥下障害の原因と分類　（神経疾患・器質性疾患・呼吸器疾患・消化器疾患） 第 4 回：嚥下障害の検査、評価（スクリーニング検査、摂食場面の観察、嚥下機能検査、） 第 5 回：嚥下障害の検査、評価（VF,VE、嚥下圧、筋電図、超音波検査、評価表への記録（演習） 第 6 回：嚥下障害の検査、評価　（口腔機能検査、構音検査との関係） 第 7 回：摂食条件設定、治療目標設定 第 8 回：嚥下障害の治療・訓練（基礎的嚥下訓練） 第 9 回：嚥下障害の治療・訓練（直接訓練：段階的摂食訓練、観察ポイント） 第 10 回：器質的嚥下障害 病態と嚥下障害の特徴、評価、訓練、補綴的アプローチ 第 11 回：嚥下障害に対する手術 第 12 回：発達障害による摂食・嚥下障害(病態と嚥下障害の特徴・評価・訓練) 第 13 回：嚥下食、栄養管理 第 14 回：口腔ケア 第 15 回：事例検討（総合討論）

学修方法	Moodle を活用し、資料配布・動画分析の自己学習・事前及び事後学修課題を実施する。
評価方法	講義での課題遂行 60%、事前学習課題遂行 20%、レポート・文献等課題発表 20%
課題に対するフィードバック	Moodke を活用し、フィードバックを行う。
指定図書	聖隷嚥下チーム：嚥下障害ポケットマニュアル（医歯薬出版） 　その他　講義資料配布する
参考図書	動画でわかる摂食嚥下リハビリテーション(中山書店) 動画でわかる摂食嚥下障害患者のリスクマネジメント(中山書店)
事前・事後学修	各回で出される課題について自己学習し、次回に発表会を行う。嚥下調整食を食べ検討したり、訓練法をお互いに実施したりするなど、演習も含めて学ぶ。臨床現場での症例や遭遇したできごとなどの情報を積極的に持ち寄り、受講者で議論しながら解決方法を探っていくことも行う。
オフィスアワー	個別に相談し設定します。メールでの相談は随時受け付けます。